

令和7年度 江戸川区立一之江第二学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考え、進んで学習する子ども 思いやりがあり、助け合う子ども 体力のある、元気な子ども 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 明日登校するのが待ち遠しい学校 よく考え、進んで学習する子ども・思いやりがあり、助け合う子ども・体力のある、元気な子ども 子供たちの「明日」を考えた指導ができる教師
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> 学力診断テストを通して、基礎・基本をしっかりと身に付けることができた。 HPをこまめにアップすることで、学校の様子を地域保護者に積極的に発信することができた。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業改善や体力向上に向けた取組に取り組んだが、体力テストの結果の向上にはつながらなかった。 保護者からのアンケートを2回実施することで、教育活動の充実につなげていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学習の基盤となる基礎、基本の確実な習得のためのテストの実施	東京ベジックドリル診断テストの実施	年度末実施の診断テストの正答率60%未満の割合10%未満	20%		D	現在の達成率は低いですが、年度末の診断テストでは、目標を達成できるように各学年の取組を引き続き行っていく。	C	20%の保護者が、学力が十分に身につけていないと感じている。					
	家庭学習習慣の定着に向けた学校の組織的な対応による取組の実施	家庭学習週間（江戸川っ子study week!）の設定の実施	ドリルパークを活用し、7日間×3回（毎学期1回）の実施	80%		B	ほとんどの児童が取り組むことができています。取り組めていない児童への言葉掛けを強化していく。	B	92%の保護者が、学校の家庭学習習慣が身に付く取組を評価している。					
	読書科の更なる充実	学校図書館を活用した探究的な学習の実施	学期に1回、全学年で実施	57%		C	図書館を使っっての探究的な学習を行っていない学年があった。教科単元を調整して実施していく。	B	学校の取組を通して、読書に触れることができています子供が多かったです。					
体力の向上	持久力や敏捷性などの基礎体力の向上に向けた取組	体育授業における運動量の確保	一単位授業あたり、30分間以上の運動時間確保	90%		A	各学級とも運動量を意識して体育の授業に取り組むことができています。	B	学校公開では、たくさん汗をかいて体育の授業に取り組んでいた。					
		江戸川っ子なわ跳びウィーク	年間で2週間×3回のなわ跳びウィークの実施	88%		B	なわ跳びウィークを実施することができたが、より充実した取組になるよう検討が必要である。	C	家庭で日常的に運動に取り組んでいる児童の割合が少ない。運動の日常化につながるような取組を行っていく。					
		校内研究による教員の授業力向上による、運動の質の向上	年間6回の研究授業の実施と協議会による授業検討	90%		A	研究を通して、体育の授業力の向上につながっている。継続して取り組んでいく。	A	学校公開では、友達と協力して楽しそうに体育の学習に取り組んでいた。					
実現に向けた教育の推進	特別支援教育の推進	適正な就学に向けた保護者との連携	対象児童の保護者との連携率100%	100%		A	対象児童の保護者ときちんと連携して、対応することができています。	A	担任、保護者、巡回指導担当教員で課題を共有し、連携して指導に当たることができています。					
	異学年交流	いちにタイムの充実	年間6回の実施、児童アンケートで「いちにタイムが充実している」という回答90%以上	100%		A	教員目線では、充実した活動を行うことができています。取組を継続させていきたい。	A	学校の取組を通して、充実した異学年交流を行うことができています。					
	あいさつから始まる異学年交流	児童アンケートの「すずんであいさつをしている」という回答90%以上	86%		B	あいさつができています児童とそうでない児童の差を感じる。得意ではない児童の習慣化につながる取組を検討していく。	B	81%の保護者が、子供たちはあいさつがきちんとできていますとアンケートで回答している。						
不登校・いじめ対応の充実	子どもたちの健全育成に向けた取組	いじめの早期発見・早期対応。	年2回のふれあい月間の実施	100%		A	いじめアンケートやいじめに関する授業を確実に実施し、いじめ防止に向けた取組を推進していくことができています。	A	89%の保護者が、いじめの早期発見・早期対応に向けて学校は取り組んでいると評価している。					
		不登校の解消に向けた取り組み	対象児童の保護者・SC、SSW等の関係機関との連携率100%	100%		A	対象児童の保護者に対して、担任、学年、関係機関等で対応をすることができています。	A	92%の保護者が、自分の子が楽しそうに学校に通っていると感じています。					
		L-Gateを活用して日々子供の実態把握に努める。	実施率100%	70%		B	日によってL-Gateを実施できていない学年、学級があった。後期は全学級完全実施を目指していく。	A	90%の保護者が、学校は子供たちの姿を見守り、指導・支援を行っていると感じています。					
学校（園）開かれた地域社会の実現	学校（園）ホームページの充実等	学校ホームページの更新	毎日更新を行う	75%		A	毎日学校ホームページの学校日記の更新を行うことができた。	A	87%の保護者が、学校だよりやホームページを通して学校の様子がよく分かると評価している。					
	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた本シートに基づいたアンケートの実施	前期後期の年間2回を実施する。	100%		A	前期の教員アンケート、保護者アンケートを基に、話し合った改善策等について、取り組んでいく。	B	前期の学校評価アンケートに対して、194件の回答があり、多くの保護者が教育活動の改善・充実に協力している。					
	保護者が学校に足を運ぶ機会の充実	学校公開・保護者会・運動会等の実施	保護者が学校に来る機会を月に1回以上設定をする。	100%		A	予定されている機会について、案内を配布し、実施することができた。	A	学校公開のアンケートでは、学校の子供の様子が見られてよかった・安心したなどの感想が多く寄せられていた。					
教育の特色ある展開	一部教科担任制の推進	3年生以上による一部教科担任制の実施	児童アンケート教科担任による授業が分かりやすいという肯定的な回答8割以上	100%		A	教科担任を実施している全教員が、担当教科の授業力の向上を感じている。	A	97%の保護者が、教科担任制により、学習活動が充実していると評価している。					
	本校の伝統を受け継いだ教育活動	金魚の飼育を通じた、生命尊重・動物愛護の精神の育成	全学級において金魚の飼育と月1回以上の水権の清掃	90%		A	委員会や係の児童が、金魚の飼育に積極的に取り組み、生命尊重・動物愛護の精神を育てている。	A	95%の保護者が、子供たちは生命を尊重し、生き物を大切にしていると感じている。					
	教育活動の充実に向けたICTの効果的な活用	ミライシードを効果的に活用した授業実践	高学年は1日1回、低学年は週に3回以上のミライシードへのアクセス	90%		A	全教員がiPadを効果的に活用して、授業を行っている。更なる充実に努めていく。	A	91%の保護者がiPadを効果的に活用して学習活動に取り組めるよう努めていると評価している。					